

「尾母小・中学校の尾母アキムチ伝承活動の取組

1 学校名

徳之島町立尾母小・中学校

2 学年・人数

小学3年生から6年生（13名）、中学1年生から3年生（13名）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

不定期

尾母小中学校

（2）発表の日時・場所

9月の彼岸の亥の日

尾母集落

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

尾母アキムチ（おもあきむち）

（2）由来

「今期の豊作に感謝し、来期の豊年を祈願する」という意味を込めて行われるようになった。

（3）構成等

「イッサンボー」と呼ばれるかかしに似た人形を先頭に、青年団員がたいまつとカゴを担ぎ、それを中心に大人から子どもまで大勢の住民が集落内を練り歩く。この時、太鼓の音を響かせ、にぎやかな踊りを披露する。なかでも新築の家や新しく集落に越してきた家族は、御馳走を準備することで、これからの「安全」と「健康」そして「幸福」を招き入れると伝えられている。

5 保存会や地域との連携の具体

集落の青年団員を中心に大人から子どもまで参加している。徳之島から離れて生活している方も、この行事に合わせて帰省している。現在は「アキムチ」に興味をもち、他の地域から参加する方も増えつつある。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

当日は、どんなに忙しくても各家々で熱心に餅づくりをしている。しかし高齢化が進み、餅を作る人が少なくなりつつある。このことについて徳之島町の女性連主催で地域セミナーを開催し「アキムチ」作りに興味をもってもらう取組が行われた。また、若い世代の積極的な参加のために衣装を統一してはということで地域の色である「ムラサキ」のTシャツに「イッサンボー」を描いたTシャツを作成した。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【保存会から】

このような伝統ある行事を引き継いでいくためには、集落中の人達が健康で心豊かに生活し、また助け合いの精神でいることが大切だと思う。このようなことで、子どもたちの心を豊かにし、また笑顔を決やさないように「アキムチ」が伝統行事としてこれからも途切れることなく、引き継がれていったらと思う。

【地域の方から】

小学生の孫に「おばあちゃん、どうやって踊るの？」と尋ねられ、踊ってみせると孫も見よう見まねで踊ってうれしかった。